

## 「今求められる教育の質とは—多様な視点から」

ジョセフ・アンピア

ガーナ、ケープコースト大学

初等教育質向上調査センター（CRIQPEG）所長



座長、ありがとうございます。このトピックに関して、様々な視点があります。私はいくつかの視点を紹介するとともに、教育の質に関する考え方もいくつか述べたいと思います。例えばガーナにも非常に成績優秀な児童生徒がいます。ある特徴があります。国際的にみても、外国に行って優秀な成績を収める国際的に競争力の高いガーナ人がいます。彼らはアメリカや日本やイギリスに行って優秀な成績を収めており、彼らが受けた教育が競争力があることを示しています。私たちは、すべての人々に質の高い教育を求めています。すべての子どもたちを育てられるように、リソースを確実に平等に分配しなければなりません。世界の大学にも、他の国の人々と肩を並べる、またはそれ以上に優秀な人々が来ています。同じ国の中でリソースが偏って分配されているのです。

教育の質についての考え方を話すとき、多くの人々はインプット、プロセス、アウトプット、アウトカム、付加価値を考えます。これは基本的なインプット—プロセス—アウトプットのモデルとして知られています。認知面・情緒面の成果は、児童生徒が国のカリキュラムに明記された知識やスキルや行動をどの程度習得したかによって測定されます。このモデルは多くの国々で重視されています。

フォーマルな学校教育は、個人的なスキルや人的資源の開発に貢献する重要な要素の一つと考えられています。開発をめざすなら、学校教育に力を入れ、質の高い教育を重視しなければなりません。2005年のユニセフ報告書によると、認知能力の向上と修学年数は開発を左右する重要な要素であることが、ガーナ、モロッコ、ケニアなど6か国で実施された研究によって明らかになっています。フォーマルな学校教育を受けた人々は高い所得を得ています。教育が高い社会ほど、イノベーション率が高くなり、全体的な生産性が向上し、新技術をより迅速に導入できると言えます。

ガーナでは、（1）資金、本、建物、教員などのインプットの変数、（2）授業におけるインタラクションなど、プロセスや組織的な要素、（3）試験の成績などのアウトカムの変数、（4）留年率や中途退学率などの代替指標などによって、教育の質を測定しています。世界は地球村となっているので、互いに交流する中で必ず共通点が見いだせるはずで

ガーナの財政的なインプットを正確にみると、減少しています。2002年に初等教育の経常支出の目標は34.7%でした。2015年には34.4%と予想しています。実際の支出は、2002年は34.8%、2005年は31.8%でした。

BECEやTIMSSの成績など、アウトカムの変数を検討するときには注意しなければなりません。BECEの成績をパーセントで示すのはあてになりません。例えば、成績がトップの4人の児童生徒しか試験を受けず、全員が合格するという学校もありえます。その場合、スコアは100%となります。一方、児童生徒40人が全員受けて30人しか合格しない学校のスコアは75%です。また、試験対策用の授業をしている学校もあります。有意義な質の高い教育は応用力に表れますが、応用力を養うというより、型どおりの問題で高得点を取ることを目的に教えている危険性があります。BECEは教育や学習を支援するリソースが都市部と農

村地帯で格差があることは考慮していません。BECEは、児童が基礎的な教育をどこで受けているかを考慮していません。

2007年のTIMSSでは、ガーナの8年生の理科は平均303点で、全体平均の500点を大きく下回りました。理科で最も成績の高い層を示すベンチマークの625点を取った生徒はだれもいませんでした。つまり2007年TIMSSの理科の枠組みでは、最も複雑な問題や論理的な思考力を問う問題で、高い能力を示した生徒はだれもいませんでした。次に高い得点層のベンチマークの550点以上を取った生徒も1%しかいませんでした。普通の成績(475点以上)は6%、低い成績(400点以上)は19%でした。理科で大多数のガーナの生徒(74%)は低い成績のベンチマークの400点にも届きませんでした。

要するに、学校が提供する教育の質を決定する重要な要素は何かを考えなければなりません。TIMSSを受けたガーナの8年生は国際的に競争力があるのでしょうか。理数科の成績が低い状態で、イノベーション率や全体的な生産性を高め、新技術を迅速に取り入れることができるのでしょうか。ご清聴ありがとうございました。

